



THE SERVICE CLUB OF Y.M.C.A. THE Y'S MEN'S CLUB OF KOFU 21

山梨県甲府市中央5丁目4-11
山梨Y.M.C.A.青少年センター
〒400-0032 TEL 055-235-8543
FAX 055-235-8553

国際会長主題：ともに、光の中を歩もう
アジア太平洋地域会長主題：ワイズ運動を尊重しよう
東日本区理事主題：広げよう ワイズの仲間
あずさ部長主題：継続は力なり・一歩でも前に・そしてあがこう
甲府21クラブ会長主題：実現可能な目標定め 山梨Y.M.C.A.を支援しよう

Henry Grindheim (ノルウェー)
Tung Ming Hsiao (台湾)
栗本 次郎 (熱海)
大野 貞次 (東京西)
佐藤 重良

甲府21ワイズメンズクラブ
2017年10月会報
強調月間
EMC/E YES

今月の聖句

弟子たちがイエスに尋ねた。「ラビ、この人が生まれつき目が見えないのは、だれが罪を犯したからですか。本人ですか。それとも、両親ですか。」イエスはお答えになった。「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである。」
ヨハネによる福音書 9章2節-3節 功刀 弘 選

会長挨拶

甲府21ワイズメンズクラブ会長 佐藤重良



佐藤重良会長

2017年9月5日の例会にて、貧困児童支援活動について深沢久様から卓話をいただきました。私の会長年度の活動の目標にも掲げてありますので大変に参考になりました。

深沢先生は元教師で教職定年後、無料で塾を立ち上

げて9年目となるそうです。国の統計で全家庭の16%が貧困家庭の児童とのこと。驚くべき深刻な問題であることもデータで示してくれました。

タダゼミ（無料塾）の運営は、深沢先生をはじめ諸先生達（20名）の全くのボランティアで成り立っています。例えば富士吉田方面（車で片道1時間）から甲府市の塾に通っている先生もいるそうです。

先生達の取り組みの情熱と決意と行動に大いに感銘し敬服したところです。世の中には、素晴らしい先生達がいることで、子ども達も安心して勉強できると共に必ずや世の中に役立つ人間に成長することでしょう。

【甲府21ワイズメンズクラブ2017-2018達成目標値】

- ニコニコ募金：250,000円
- バザー：50,000円
- クリスマス例会（オークション）：50,000円
- ベビーカーコンサート募金：50,000円
- 街頭募金：50,000円
- ファンド：50,000円
- 切手：5,000g
- 会員増員：2名

2017年10月例会プログラム

日時：2017年10月3日（火）午後7時00分～

会場：山梨Y.M.C.A.青少年センター

司会：輿水順雄メン

- ①開会点鐘 佐藤重良会長
- ②ワイズソング・ワイズの信条
- ③今月の聖句 功刀 弘メン
- ④会員一言 小澤公紀メン
- ⑤会長挨拶 佐藤重良会長
- ⑥ゲスト・ビジター紹介 佐藤重良会長
- ⑦ハッピーバースデー
- ⑧ワイズディナー
- ⑨ゲスト卓話 船木上次氏
- ⑩諸報告
- ⑪Y.M.C.A.の歌
- ⑫閉会点鐘 佐藤重良会長

【10月の誕生者】

【メン】

佐藤重良（10月12日生） 荻野 清（10月19日生）
米長晴信（10月21日生）

【メネット】

野々垣悦子（10月5日生） 松村仁子（10月5日生）

【卓話者プロフィール】



船木上次氏

1949年、山梨県高根町清里（現北杜市）生まれ。幼少の頃より「清里開拓の父」といわれた故ボール・ラッシュ博士とともに過ごす。1971年に清里で初となる喫茶店「ロック」を開店。1977年に「萌木の村株式会社」を設立。代表取締役社長に就任した。清里を誇りの持てる場所にするために、野外でのクラシックバレエ公演「清里フィールドバレエ」をはじめ、様々な活動を続けるなど、観光活性化に貢献。2003年には国土交通省「観光カリスマ百選」に認定された。

<主な役職>

清里フィールドバレエ実行委員長、ボールラッシュドリームプロジェクト代表、バレエチャンプルウエスト後援会「水の会」副会長、NPO法人スペシャルオリンピック日本・山梨理事長、MBS日本支部顧問、公益財団法人キープ協会理事、山梨メセナ協会理事、財団法人安達原弘画美術館理事、山梨県立大学経営審議委員、理事長・学長選考委員、山梨観光大使

2017年9月例会報告

甲府21ワイズメンズクラブ書記 寺田喜長



深沢久氏の卓話を聞く会員達

2017年9月5日＝甲府市・山梨YMCA青少年センター

定刻に点鐘、納涼例会に参加した他クラブの会員より好評を頂いた事などの会長報告があり、9月誕生者4名のうち、70代の3名は体調管理に日々配慮しているとのコメントがあり、新しい仕事に意欲を燃やす未だ40代1名のコメントと対照的でした。『無料塾「希望」の活動から見えてくる子供達の貧困』と題して深沢久氏に卓話をして頂きました。8年も前から子供の貧困による就学不能な児童が増え、日本の将来を担う若者の育成を憂い学習支援の「タダゼミ」を主宰、行政も5年前より遅ればせながら生活困窮世帯の支援に乗り出し、「生活困窮者自立支援制度」を制定、困窮世帯の子供支援から高校中退者の学習支援まで対象を拡大し、子ども達の貧困を支援する対応を始めました。深沢氏は、私達が外見では見分けがつかない貧困児童が存在することを認識し興味を示すことが大切と述べられました。東日本地区YMCAも今年より「ポジティブネット子ども基金」を設立、10月には街頭募金を実施します。貧困児童が現実存在し、当たり前前の教育が受けられていない事実を認識し、微力ながら街頭募金にまず協力しましょう。

諸報告では、10月21日のあずさ部会への出席依頼、YMCAバザーの当クラブの販売品目、売上目標が提示され協力要請がありました。余談ですが、ワイズソングは楽譜の音符拍数で普段歌っていませんので、伴奏と合いませんでした。

日時：2017年9月5日（火）午後7時00分～

会場：山梨YMCA青少年センター

司会：小澤（公）

聖句・一言：後藤

出席者：相川、赤根、稲垣、荻野、小澤（公）、小澤（智）、鎌田、功刀、輿水、後藤、駒田、佐藤、清藤、茅野、寺田、奈良田、野々垣、廣瀬、古屋、松村（禎）、葉袋、山県、米長

ゲスト：深沢 久氏

子どもの貧困—私たちの人間観が問われている

タダゼミ主宰 深沢 久



子どもの貧困の現状について語る深沢久氏

2017年9月5日＝甲府市・山梨YMCA青少年センター

子どもの権利とは

子どもとは18歳未満のひと。人は生まれながらにして「自由」であり「平等」であるというのが独立宣言以来の原則、明確になったのは1989年の国連「子どもの権利条約」、長い歴史の中でようやく獲得した人類の財産。

子どもは国・地域を選べないし、親も選べない。だからこそ全ての子どもには等しく生きる権利が保障される。

子どもの貧困は深刻か

数字で見ると非常に深刻。日本の子どもの貧困率は約16%（国の発表）、子どもの6人に1人は家庭の年収が約200万円以下で生活。ひとり親の家庭の子どもの貧困率は50%を超える。世界の中（OECD諸国）でも極めて高い。この貧困は外側からは見えないのが特徴。

服装や持ち物からはほとんどわからないから私たち大人の洞察「力」がなければ捉えられない。貧困の中にいる子どもは「心の貧困」が生まれる。学力低下、意欲の低下、そして友との人間関係の希薄化や文化面での力の欠落。不登校の生徒が増加していることもこのことと無関係ではない。

何が子どもの貧困の原因か

ある人に「子どもの貧困」という言葉を使って怒鳴られた。その人の理由は「大人が貧困だから子どもが貧困になるんだ。問題は大人の貧困なんだ」と。

一理ある。非正規労働、ワーキングプア、競争と格差（特に男女格差）の社会、離婚家庭の増加、教育費の異常な増加……。しかし疑問も湧く。「貧困の連鎖」は理解できても個人の努力で貧困から抜け出た例もあるのではないかという意見も。

市民の立場から解決の糸口は

「自己責任論」の再検討。学力が低いのは個人の責任、ニートになるのも個人が悪い、賃金が低いのは個人に能力がないから、離婚は全く個人的な問題・・・。「個人が悪いのか？」ここが出発点かも知れないと思う。

いま様々な社会的対応が

国も地方自治体も「子どもの貧困」が社会的問題であり、将来の社会にも悪影響を及ぼすという認識から対応を始めた。子どもの貧困対策法が国会で成立、生活困窮者自立支援法も動き始めている。私達の周囲では「子ども食堂」も多くなりつつあるし、無料塾も多様な形で地域の中に入ってきている。さらに奨学金（給付型）の新制度も不十分だが新たに出発した。大人が真剣に考える時が来たように感じる。

会員ペンリレー YOU ARE NOT GOOD NEIGHBORS! 甲府21ワイズメンズクラブ 後藤哲夫

「イエスと歩む沖縄・牧師 平良修」という番組をDVDで鑑賞した。オスプレイや辺野古が問題となっている昨今である。平良牧師は米軍の援助を得て神学校を卒業し、牧師となった。その後米国へ短期留学をするのだが、激しい公民権運動を目の当たりにして初めて、自分とは何者なのか、沖縄の牧師であることの意味を自問自答する。帰国した平良さんは変わった。高いところから語るのではなく、低みに立って弱い者の一人として語る牧師となった。

2つの行動が印象的だ。1つは沖縄高等弁務官就任式の祈りで「彼が沖縄最後の高等弁務官となりますように」と祈ったことである。もう1つは、夜明け前から普天間基地ゲート前で、プラカードを持って抗議する姿だ。そこには、YOU ARE NOT GOOD NEIGHBORS!（あなた方はよい隣人ではありません）と書かれていた。「よきサマリア人」として誰でも知っている話から取った言葉である。

「私の隣人とは誰か?」と質問した学者に、イエスはたとえ話で答えられた。強盗達に半殺しにされた旅人を唯一最後まで面倒をみたのは、ユダヤ人と敵対関係にあるサマリア人であった。ここにイエスの意図が明確に示されている。強盗に襲われるような突然の不幸、災難はいつでも、誰にでも起こり得る。そして沖縄が慢性的に抑圧され、危険にさらされている事もきちんと知ってお

きたい。平良牧師のプラカードは、自分自身にもつきつけられていると信じる。



米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）

バザーに向けて花を育てる

甲府21ワイズメンズクラブ会長 佐藤重良



佐藤会長が育てているパンジーなど

今年も山梨YMCAのバザーが11月3日に開催されます。知り合いに献品のお願いや甲府21クラブで出品可能な商品の企画をしているところです。

去年はバザーの賑わいと売り上げ増加を期待して、パンジーとビオラの花を販売させていただきました。好評だったので今年も販売しようと企画しています。

先日、ある人からバザーの精神について聞きました。

それは、他から仕入れたものを販売するのではなく、「自らの奉仕で作ったものを販売させていただくのがバザーの本来の精神だろう」とのことでした。

そこで、私は自分で種蒔きし育成したものを献品させていただこうと決意し、7月2日からパンジーとビオラの種蒔きをして育成しています。

しかし、270粒種蒔きしましたが順調に育っているのが80株程度です。3分の1以下の確率です。さらに8月22日に160粒追加して育成しています。上手く育ってくれと願っています。

初めての農作業

甲府21ワイズメンズクラブ会長 佐藤重良

甲府21ワイズメンズクラブの山梨YMCAへの支援（11月3日に開催される第57回のバザー支援）のため、土もの野菜を種蒔きから収穫まで甲府21クラブ員の奉仕で実施しようと考え、9月5日に笛吹市内に借りた畑で会員4名（功刀、寺田、稲垣、佐藤）が白菜の苗を200株植えました。

また、9月15日には、メンとメネットの合計5名（小澤（公）、荻野、廣瀬夫妻、佐藤）で大根の種1200粒を蒔く作業を行いました。

農作業が生まれて初めてのメンバーもいました。私もその1人でした。

畑の提供者は沼田三郎さんで、農作業の指導と育成の手入れもご奉仕いただいております。

収穫は、甲府21クラブのメンバーと山梨YMCA関係の子ども達と一緒にやりたいと思っています。子ども達の歓声と笑顔を楽しみにしています。



白菜の苗の植え付けを行う
2017年9月5日＝笛吹市内



大根の種を蒔くメンバーら
2017年9月15日＝笛吹市内

YMCA便り ポジティブYに願いを込めて

山梨YMCA総主事 露木淳司

10月1日より、YMCAのロゴマークが一新され、全国一斉に使用開始となりました。シンボルとなっている赤いYの文字のマークは「ポジティブY」という愛称を持ち、鳥が飛び立とうとする瞬間の姿をモチーフにしています。一人ひとりの生命の息吹、未来へ向かう前向きな力、平和への思いを表現しています。

右上の顔の部分の逆三角形は、Spirit、Mind、Bodyを意味する変わることのないYMCAの精神が内包されており、新しくYMCAが提供する「みつかる」「つながる」「よくなっていく」という3つのバリューとの融合を図ります。柔らかな曲線と鮮やかなレッドによって、生命の息づかいと、YMCAの希望ある豊かな社会が実現される印象を感じさせます。



はじめは違和感を覚える人もいるかも知れません。今までの方が良かったと思う人も多いことでしょう。でも、このマークが誕生した背景には、日本全国のYMCAにおいてのモニタリングを基に膨大な議論と研究がなされ、専門家の意見を聞きつくす「ブランディング」という気の遠くなるような作業を必要としました。どうぞ一緒にこのマークの行く末を見守っていただだけませんか。

そして、私たちの山梨YMCAは、マークだけでなく2020年の新会館オープンを目指して、施設も事業内容も大きく生まれ変わろうとしています。21年の75周年は新会館で迎えよう、と準備が着々と進められているのです。この瞬間を皆様と共に迎えることのできる偶然を喜びたいと思います。

乳幼児も青少年も、高齢者も障がい者も、外国籍市民も・・・山梨、長野に暮らす全ての人々と連携しながら、YMCA FOR ALL による地域共生社会を実現しましょう！

■2017年9月 例会データ(会員数25名)

9月第1例会出席者	: 23名	出席率	: 92%
9月第2例会出席者	: 16名	出席率	: 64%
ニコニコ募金(第1例会)	: 14,100円		
ニコニコ募金(第2例会)	: 0円		
ニコニコ募金9月合計	: 14,100円		
ニコニコ募金累計	: 55,374円		
切手	: 900g	達成率	: 18%

■今後の予定

- 10月14日(土) 山梨YMCAポジティブネット街頭募金協力(甲府市内)
- 10月17日(火) 第2例会 会場係:TOF
- 10月21日(土) あずさ部会(東京神楽坂)
- 10月27日(金) ベビーカーコンサート視察(埼玉県)
- 11月 3日(金) 山梨YMCAチャリティー・バザー(山梨YMCA)
- 11月20日(月) フライングディスク大会支援(小瀬スポーツ公園)